

尊い命

仲嶺 真弓

季節は早くも初夏。6月23日は、沖縄の“慰霊の日”でした。今年は戦後76年を迎えます。毎年この時期から～夏にかけて、心に留め考えること…それは戦争の歴史、命の尊さを考えることです。沖縄は第二次世界大戦において住民を巻き込んだ地上戦の場となり、多くの尊い命を失いました。私事ではありますが、私のルーツも沖縄にあります。だから、戦争についての思いは、8月15日の“終戦の日”を迎える以前にあった沖縄での話を語らずにはいられません。

私の父は他界して随分時は経ちますが、夏が来るたびに思い出します。生前、父は戦争についての資料を読みあさり、テレビのドキュメンタリーがあればそれを見て、脳裏に焼き付いているだろう戦争の記憶を思い出しては考え込んでいました。私はその父の後姿を今でも忘れられずにいます。父は沖縄から出航した学童疎開船に乗り込む直後に、爆撃にあい、爆風で足を負傷し片耳の聴力を失いました。けれど、乗るはずだった疎開船は、たくさんの学童が乗っているにも関わらず、本土に辿りつく前に大海で撃沈。父は負傷したことで命は助かったのだということをお話してくれました。自分が乗るはずだった船は“対馬丸”だったのではないかと。 “対馬丸”でなかったとしても、その前後にも爆撃を受け沈没した船があることを知りました。この事実はきっと、忘れてはいけないことなのだと思います。

日本は、1945年8月6日 午前8時15分 広島に原子爆弾投下され、同年8月9日 午前11時2分 長崎に原子爆弾投下されました。そして8月15日に、終戦の日を迎えました。この歴史をどう考えるのか…。こんな悲惨な戦争体験は風化させてはいけません。大人の私たちが子どもたちに、その教訓を後世に継承していきたい。そんな思いでいます。私がいま、生きているのは、戦火の中を生き抜いた父がいたから。この命を大切に次の時代を生きる子どもたちに繋いでいきたいです。

そんな思いを胸に、今日も子どもたちを見守ります。子どもたちは今日も元気いっぱいです。これから、夏に向けて、子どもたちの泥んこあそび、水遊びが始まります。お日さまの光を受けて、今を生きる子どもたちの姿に大人も元気をもらいます。そんなワンシーンを一足先にどうぞ。子どもたちには今しかできない遊びを満喫してほしいです。右下の写真は、避難訓練でいつもは園庭に集まり人数確認をしていますが、お隣2号公園に集合しての避難訓練の様子です。



どろんこ遊び。寝転ぶ子もいます



どろんこ遊びを興味はあるけど遠巻きに見ている1歳児



どろんこ遊びの横でマイペースに砂遊び



2号公園に避難訓練